

関東選抜リーグ戦初戦・強豪日立製作所戦

都市対抗野球大会東京都二次予選敗退後(5月28日対鷺宮戦)の公式戦を8月17日(木)埼玉県営大宮球場にて関東選抜リーグ初戦・強豪日立製作所戦を観戦。

久しぶりの観戦。試合開始は11時30分の為自宅(柏市)を早めの9時10分出発したが(自宅⇒球場約50Km・2時間の予定)以外に時間がかかり球場についたのは11時30分。

試合はすでに開始され1回の裏1死3・1塁のチャンス4番増野選手の場面でしたが増野選手ショートゴロ併殺でチャンスを潰したところでした。

明治安田の先発投手は2年目の木村投手(立教大)長身から繰り出す角度のあるストレートで1回のピンチを凌ぎ4回まで被安打4奪三振2与四球1失点0の好投。

木村投手の投球を初めて観戦いたしました。ストライク先行で安心して見ていられた。5回から久しぶりの鈴木投手は1回1/3、これまた久しぶりに怪我から復帰の岡投手に継投し2/3回を無失点と好投。7回からエース大久保投手登板。7回は二死から連打されるも後続を断ち切った。8回またも2死から連打され1点先行されたが後続を断ち切った。今年の大久保投手は2死から連打される場面が多くみられる。

投球リズム・配給が単調になる傾向がありバッテリー間の協調が求められる。

東京企業チームでも有数の投手である大久保投手の立ち直りがチームの鍵となる。

9回からJR東日本に補強されたベテラン古田投手が登板。9回を三者凡退に退け流石の立ち上がり。10回からタイムブレイクに入り1死満塁から試合再開となるも相手の最初の打者3番をセカンドゴロに打ち取るも1点献上、2死3・2塁から次打

者 4 番をファストライナーに打ち取る好投。

打撃陣は 7 回まで散発 4 安打と相手投手に抑え込まれた。

4 回 2 四球 1 安打で 2 死満塁のチャンスを作る 7 番大野選手満塁ホームラン性の打球をレフトに飛ばすがファールとなり誠に残念、直後強烈なサードゴロに終わった。5・6・7 回チャンスらしい場面もなく、8 回裏の攻撃先頭打者新城選手(新人・中央大)がセンター前ヒット 1 番吉田選手(新人・明治大)が確実に送り 2 番木田選手(新人・早稲田大)がレフト前ヒットで繋ぎセガサミーに補強された 3 番宮川選手が確実にレフトへ犠牲フライを打ち新城選手が同点のホームを踏む。9 回 5 番竹内選手が内野安打で出塁するも加藤選手がショートゴロ併殺後道端選手がセンター前ヒットでつなぐもこうぞくが打ち取られ延長 10 回からタイムブレイクへ。

10 回表 1 点先行されるも 1 死満塁からの攻撃打者は頼れる宮川選手カント 1 ボール 2 ストライクの 4 球目を見事左中間に逆転 2 点サヨナラ二塁打で勝ち越す。

お見事・アッパレ宮川選手。タイムブレイクの勝利は初めての経験で興奮した。

この勢いで東京都秋季企業大会と日本選手権大会関東予選に選手・スタッフ一体となり健闘されることを祈っております。

大阪京セラドームで応援を楽しみにいたしております。

2017 年 8 月 18 日

土田 唯雄